

契約農家80人が参加し、国産ゴマ栽培研修会

釜屋

ゴマやゴマ製品製造販売の(株)釜屋（合志市栄、釜賀精二社長）は2月18日、合志市総合センターウィーブルの研修室で国産ゴマ栽培研修会を開いた。

契約農家が生産するゴマの品質向上や生産者間の情報交換を目的に開催したもの。当日は同社の合志地区契約農家80人が参加。釜賀社長は「安心・安全な国産ゴマの生産は、生産者のみなさんとの信頼関係で成り立っている。今年も高品質のゴマをたくさん収穫

できるよう、ご協力をお願いします」とあいさつ。続いて、釜賀社長の解説で、鹿児島、長崎地区のゴマ栽培のスライドを鑑賞後、鹿児島県南さつま市金峰町の金峰こま生産組合の原田秀雄組合長が、間引きや天日干しの方法、殻抜き、台風時の対策について説明し

た。同組合は、独自にゴマ用のコンバイン開発や、無農薬、無化学肥料でゴマを生産。参加した農家から、害虫や除草に関する相談が多く寄せられていた。

同社は全国約300人の契約農家が生産したゴマを、いり・すり・練りゴマのほか、主力商品の「こまドレッシング」などに加工し、通信販売や大手デパート、生協などで販売している。



釜賀精二社長



▲合志地区の契約農家80人が参加した研修会



▲各農家が生産したゴマを会場に展示。粒の大きさ、重さを比較する生産農家



▲メソを取りながら真鍮な表情で説明を聞く参加者